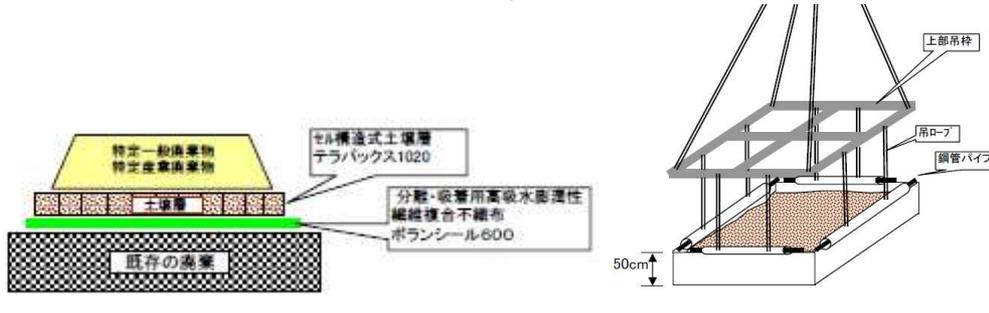


商品・工法名称	汚染土壌の撤去を考慮した箱状袋体による土壌層設置工法
商品・工法の分類	□瓦礫処理、■除染作業、■除染仮置き、□復旧・復興、□その他
商品・工法概要	<p>放射性廃棄物仮置き場の下部に設けられる吸着層の土壌を容易に撤去できる工法。廃棄物が仮置き場から撤収される時、下部の土壌が放射性廃棄物で汚染されていた場合当土壌も回収されて処分されなければならない。層厚 50cm 程度の汚染土壌を回収することを容易にするためにあらかじめ箱状に加工された袋体の中に土壌を収め、回収時には箱状袋体のままクレーンなどで吊り上げ回収する工法。</p>
商品規格・概略図等	<p>土壌施工範囲をいくつかの小さなマス目に分割し製作された袋体を設置して土壌を収めていく。袋体の強度は収められる面積や吊方法によっても変わるが、概ね 0.3~0.5mm 程度の厚さを持つ織布が適当である。またあらかじめ内袋として不織布を重ね合わせて袋体を製作することも可能。</p> 
使用・施工条件 適応場所など	<p>特定一般廃棄物、特定産業廃棄物の埋め立て処分に際して、下部土壌層に放射性物質が溶出する可能性が考えられるところに使用する。また不同沈下が想定されるじばんでは別途検討を行うことで不同沈下を抑制する材料としても効果が期待できる。</p>
その他必要資材	<p>吊上げ用の機械と吊上げ用の鋼管パイプと吊ワイヤー、袋材が吊った時に中央部に土砂が集まってこないような上部吊具が必要となる。これらは転用が可能である。</p>
使用・施工上の 留意点	<p>袋材料が既存の廃棄物などで損傷を受けないようにするために下層に保護層としての不織布などは必要となる。 袋材の敷設時および土壌投入時に袋材を傷つけないように気をつけること。また施工は1つ飛ばしに簡便な型枠を使用して施工するが、その後残った部分は型枠が必要なくなる。上端部の吊部は土中に埋め込まれないように注意して施工する。</p>
維持管理	
経済性	<p>汚染土壌を 50cm の厚さで漉き取る作業は、飛散、既存廃棄物中への混入、その後処理までと費用がかかる。当工法では短時間で広い面積の土を撤去でき容易である</p>
参考文献	<p>環境省が「ドライン 2-17</p>
問合せ先	<p>東洋紡績株式会社 スパンボンド事業部 石川、奥村 東京都品川区東五反田 2-10-2 東五反田スクエア 電話 03-6422-4858 FAX 03-6422-4838 <a href="mailto:Yuji_Okumura@toyobo.jp">Yuji_Okumura@toyobo.jp</a> <a href="mailto:Masahiro_Ishikawa@toyobo.jp">Masahiro_Ishikawa@toyobo.jp</a></p>